

論文審査の要旨

筆頭著者（学位申請者）氏名

神山 昌也

主論文の題目
および
掲載・審査委員

題目

大学病院精神科における高齢発症患者の在院日数に影響する因子の検討

掲載誌 聖マリアンナ医科大学雑誌 2021; 49 （印刷中）

主査 田中 雄一郎

副査 幸田 和久

副査 小野 元

[論文の要旨] 本邦では急速に高齢化が進んでおり、精神科入院患者においても半数以上を 65 歳以上の高齢者が占めている。高齢者は加齢による自らの変化や喪失体験に適応するという特有の心理社会的課題を抱えており、在院日数長期化に影響すると推測されてきた。これまでに本邦では老年期や高齢発症のうつ病患者の入院長期化に関する研究はあったものの、うつ病以外の内因性精神疾患全般の検討はなされてこなかった。本研究では非器質性精神障害の高齢患者において在院日数に影響する因子を広く検討した。

[方法] 過去 2 年間に入院した 65 歳以上の「統合失調症スペクトラム障害群および他の精神病性障害群」、「双極性障害及び関連障害群」、「抑うつ障害群」の 101 名を対象とした。発症年齢、性別、入院形態、独居、身体合併症、診断、精神病症状、抑うつエピソード、躁病エピソード、病識、希死念慮、自身の健康喪失、家族の健康喪失、転居、死別を調査変数とした。

[結果] 単変量解析の結果、発症年齢が 60 歳以上の群 ($p=0.009$)、医療保護入院の群 ($p=0.008$)、女性 ($p=0.049$)、精神病症状を有する群 ($p=0.031$)、病識のない群 ($p=0.02$)、希死念慮を有する群 ($p=0.01$)、家族の健康喪失を有する群 ($p=0.032$) で有意に在院日数が延長していた。多変量解析では、希死念慮を有することと高齢発症であることが在院日数の延長を予測する因子と判明した。高齢発症患者の入院長期化には、希死念慮のみが影響する可能性が示唆された。重症化に影響を及ぼす希死念慮は、入院長期化に影響する可能性が高い。

[論文の価値] 高齢の精神疾患患者の入院期間を短縮するためには環境調整を見据えた早期介入の策定が必要であるが、本論文はその達成に十分寄与するものと期待される。

[審査概要] 令和 4 年 1 月 12 日に主査および副査 2 名と数名の陪席のもと審査を行った。PPT を用いた 20 分間の発表と 30 分間の質疑応答を行なった。①当該研究領域の歴史的流れ、②統計学的解析方法、③医療経済学的側面、④希死念慮に対する対応、⑤本研究の限界など質問は多方面に及んだが申請者は的確に回答でき、今後の課題や展望についても述べることができた。

最終試験結果の要旨

[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価]

今後の臨床研究に活用可能な専門知識や研究能力を十分獲得していると判断された。英語読解力は引用文献の音読和訳で審査し一定の能力に達していると判定された。質疑は終始真摯な態度で理性的に対応でき、その良好な人柄も鑑み、申請者は本学の学位授与に値すると判断された。